



Windows Server 2012 R2 Essentials プレビューのエクスペリエンス

製品概要



著作権情報

© 2013 Microsoft Corporation. All rights reserved.本書は現状有姿のまま提供されるものであり、このドキュメントに記載されている情報および見解は、URL およびその他の Web サイト参照先を含め、事前の通知なく変更されることがあります。本書の利用に関する責任はお客様が負うものとします。本書は、マイクロソフト製品の知的財産権に関する法的権利をお客様に許諾するものではありません。本書は、組織内における参照を目的として複製および使用することができます。本書は、内部における参照を目的として変更することができます。

内容

スモール ビジネスのニーズ	1
スモール ビジネスの課題.....	1
Windows Server 2012 R2 Essentials.....	2
スモール ビジネス向けのクラウド対応ソリューション	2
データの保護	3
安全なリモート Web アクセスの提供	4
クラウド サービスの統合.....	5
ダッシュボードとスタート パッド	6
新しい開発オプション	7
拡張性およびアドイン	8
スモール ビジネスのための Windows Server ソリューション	9
次のステップ	10

スモール ビジネスのニーズ

スモール ビジネスの課題

今日のスモール ビジネスの経営者は、ビジネス運営において日々、多くの課題に直面しています。そうした最も困難な課題の 1 つに、IT インフラストラクチャの管理が挙げられます。ただし、ほとんどの経営者にとって主眼となるのはビジネスのコア コンピテンシーであり、テクノロジーのエキスパートになることはありません。テクノロジーへの投資は最終的な利益に直接影響を与えるので、時間のプレッシャーや技術的スキルの制限という背景の中で、真のビジネス上の利益を達成し、コストを削減するというニーズが常に存在します。こうしたプレッシャーに加え、現在、多くのスモール ビジネスは、クラウド サービス、およびそれが提供する機能に注目していますが、新しいテクノロジーの導入にともなう不安も少なくありません。

Windows Server 2012 R2 Essentials は、コストの増加や IT インフラストラクチャの複雑さの増大を招くことなく、スモール ビジネスが大規模な組織と同じレベルのテクノロジーを運用できるように設計されています。Windows Server 2012 R2 Essentials の高度な柔軟性と広範なオプションは、クラウド ベースでも従来のオンプレミスでも、アプリケーションやサービスを活用することを可能にします。

Windows Server 2012 R2 Essentials には、スモール ビジネスにとって最も差し迫ったニーズのほとんどに対応できるデータの保護、安全なリモート アクセス、クラウド サービスの統合、という 3 つの主要な機能領域があります。さらに、主な新規導入オプションも 2 つ用意されています。1 つは Hyper-V ホストとして実行する機能で、Windows Server 2012 R2 Essentials を仮想マシンとして実行することにより、Hyper-V を別途取得する必要がなくなります。もう 1 つは Windows Server Essentials の機能セットを Windows Server の Standard および Datacenter エディションとして導入することです。以下のセクションでは、これらの新しい機能について詳しく説明します。

Windows Server 2012 R2 Essentials

Windows Server 2012 R2 Essentials は Windows Server の最新バージョンで、小中規模のビジネスを対象に設計されています。クロスプレミス機能が導入されており、オンプレミスのファイルと印刷、セキュリティ、バックアップ、リモートアクセス、ID 管理の各サービスを、オプションのクラウド (オフプレミス) サービスと組み合わせることができます。

スモール ビジネス向けのクラウド対応ソリューション

Windows Server 2012 R2 Essentials は、理想の機能を取り入れることによって、多くのスモール ビジネスに適合するサーバー環境を提供します。

- **データの保護:** Windows Server 2012 R2 Essentials では、Windows Server 2012 R2 の新機能を活用し、データ保護機能が大幅に強化されています。新しい記憶域スペース (<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/hh831739.aspx>) の機能により、異なるハード ドライブの物理記憶域容量の統合、ハード ドライブの動的な追加、復元性のレベルを指定したデータ ボリュームの作成を行うことができます。Windows Server 2012 R2 Essentials は、システムの完全なバックアップの他、サーバーだけでなく、ネットワークに接続されたクライアント コンピューターでもベア メタル回復を実行することができ、2 TB を超えるボリュームもサポートしています。Windows Azure Backup サービス (<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/hh831419.aspx>) を使用すると、マイクロソフトが管理するクラウド ベースの記憶域サービスに保存された Windows Server のファイルやフォルダーを保護することもできます。Windows Server 2012 R2 Essentials では、Windows 8 クライアントおよび Windows 8.1 クライアントの新しいファイル履歴機能を一元管理することや構成することが可能なので、ファイルを誤って削除したり上書きしてしまった場合でも、管理者の支援を必要とせずに回復することができます。
- **安全なリモート アクセス:** リモート Web アクセスでは、インターネットに接続するだけで、実質的に場所やデバイスに制限されることなく、タッチ入力に対応したブラウザを活用してアプリケーションやデータにアクセスすることができます。Windows Server 2012 R2 Essentials では、更新された Windows Phone アプリや Windows 8 および Windows 8.1 クライアント向けの新しいアプリが提供されるため、サーバー上のファイルやフォルダーに対する直感的な接続、検索、アクセスを行うことができます。ファイルも、オフライン アクセスに対応して自動的にキャッシュされ、サーバーへの接続が可能になった時に同期されます。Windows Server 2012 R2 Essentials を使用すると、ウィザードの指示に従って数回クリックするだけで、簡単に仮想プライベート ネットワーク (VPN) を設定できるので、ユーザーの VPN へのアクセス管理が簡素化されます。クライアント コンピューターから VPN 接続を利用すれば、オフィス外からでも Windows Server 2012 R2 Essentials 環境にリモートで接続することができます。
- **クラウド サービスの統合:** Windows Server 2012 R2 Essentials は、オンプレミスで実行するアプリケーションやサービスと、クラウドで実行するアプリケーションやサービスとを自由に選択できるように設計されています。以前のバージョンでは、Windows Small Business Server Standard に Exchange Server がコンポーネント製品として含まれていたため、クラウド ベースのメッセージングやコラボレーション サービスを活用する場合にコストや複雑さが増大していました。Windows Server 2012 R2 Essentials を使用すれば、オンプレミスで Exchange Server を実行する場合でも、Exchange のホスティング サービスを利用する場合でも、または Office 365 を利用する場合でも同じ種類の統合管理機能を活用することができます。

- **正常性の監視:** Windows Server 2012 R2 Essentials は、自身の状態と、Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、および Mac OS X バージョン 10.5 以上を実行しているコンピューターの状態を監視します。これらの状態を監視することにより、コンピューターのバックアップ、サーバー ストレージ、ディスク領域不足などに関する問題が通知されます。監視結果は定期的に、自動的に生成され、社内の管理者や外部のパートナーに電子メールで直接送信されます。
- **拡張性:** Windows Server 2012 R2 Essentials は Windows SBS 2011 Essentials の拡張性モデル上に構築されているので、サードパーティのソフトウェアベンダーが機能を追加することができます。Web サービス API の新しいセットも追加されています。また、既存のソフトウェア開発キット (SDK) や Windows SBS 2011 Essentials 向けに作成されたアドインとの互換性も維持されています。

データの保護

Windows Server 2012 R2 Essentials は、クライアント コンピューターをサーバーに自動的にバックアップするので、バックアップからコンピューターまたは個々のファイルやフォルダーを容易に復元することができます。このソリューションでは、革新的な手法が採用されていて、以前にバックアップされていなかったデータだけがバックアップされます。複数のコンピューター上に同じデータのコピーが存在する場合であっても、サーバー上に作成されるそのデータのバックアップは 1 つだけです。サーバーは、各コンピューター上に格納されているデータを日々追跡します。バックアップは迅速かつ効率的に行われ、サーバー上の使用領域も以前よりも少なくなります。

コンピューターの日々のバックアップの自動化と Windows 8 および 8.1 のファイル履歴のサポート。 Windows Server 2012 R2 Essentials コネクタ ソフトウェアをコンピューターにインストールすると、コンピューターのバックアップが自動的に構成されます。バックアップが構成されたすべてのコンピューターでは、バックアップが日単位で実行されます。バックアップが実行されるスケジュール、およびバックアップ データの保持ポリシーはカスタマイズ可能です。Windows Server 2012 R2 Essentials は、Windows 8 および Windows 8.1 クライアントの新機能であるファイル履歴を一元的に管理および構成するため、間違っただけファイルを削除したり上書きしたりしてしまった場合でも、管理者の手を煩わすことなく復元することができます。

コンピューター全体の復元。 バックアップからコンピューターを復元する作業は容易です。以前の時点の状態にコンピューターを復元する場合は、コンピューター復元 CD を使用してコンピューターを起動します。コンピューターはサーバーに接続し、シンプルなウィザードが表示されます。このウィザードでは、サーバーに格納されている対象のコンピューターのバックアップから 1 つまたは複数のハード ドライブへの復元が実行されます。

個々のファイルやフォルダーの復元。 Windows Server 2012 R2 Essentials では、ダッシュボードでコンピューター、およびそのコンピューターの特定のバックアップを選択することによって、個々のファイルやフォルダーを復元することができます。復元ウィザードが開始され、対象のコンピューターの特定の日にバックアップされたファイルやフォルダーが表示されます。この復元ウィンドウでは個々のファイルやフォルダー全体を簡単に選択でき、目的のファイルおよびフォルダーをコンピューター上の任意の場所に復元できます。

サーバーのバックアップと復元。 Windows Server 2012 R2 Essentials を使用すると、データのバックアップが容易になります。サーバーに内蔵または外付けのハード ディスク ドライブを追加し、それをサーバー ストレージではなくバックアップ先として指定します。Windows Server 2012 R2 Essentials は、このドライブを使用して、サーバーに格納されているすべてのデータ (オペレーティング システム ファイルとビジネスデータの両方) をバックアップします。複数の外部ドライブを使用することにより、ビジネスの継続性が向上します。バックアップ データをサイト外部にローテーションさせることが容易になり、盗難、火事、洪水などの災害が発生しても、復元の可能性を最大限に高めることができます。さらに、オプションの Windows Azure Backup サービス (<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/hh831419.aspx>) を

使用すると、マイクロソフトが管理するクラウドベースのストレージサービスでファイルやフォルダーを保護することもできます。

記憶域スペース。 Windows Server 2012 R2 の新しい記憶域スペース機能により、高い柔軟性と回復力を備え、動的に拡張可能なデータ ボリュームを低いコストで作成することができます。記憶域スペースには、次の機能が含まれています。

- **記憶域プール。** 記憶域プールは、記憶域スペースの基本的な要素です。記憶域プールは、展開する際のニーズに合わせて柔軟に作成することができます。たとえば、物理ディスクが複数存在する場合は、それらの物理ディスクすべてを使用して 1 つのプールを作成するか、必要に応じて物理ディスクをいくつかにグループ化して複数のプールを作成することもできます。さらに、記憶域ハードウェアの価値を最大限に引き出すために、記憶域プールをハードディスクの組み合わせだけでなく、複数のソリッドステートドライブ (SSD) にもマップすることができます。プールは、データの増大に応じてドライブを追加するだけでシームレスに拡張できます。
- **回復力のある記憶域。** 記憶域スペースは、ミラーリングおよびパリティという 2 つの回復モデルのオプションをサポートしています。障害が発生したディスクの交換のために予約されているプールあたりのディスクのサポート (ホットスワップ)、バックグラウンドスクラブ、およびインテリジェントなエラー修正により、記憶域コンポーネントに障害が発生してもサービスを継続することが可能です。
- **仮想プロビジョニング。** 記憶域スペースは仮想プロビジョニングをサポートするので、基盤となる記憶域プールの物理容量を超える仮想ディスクを作成することができます。仮想ディスクに保存されているデータが物理容量の上限に達すると、仮想ディスクや仮想ディスク上のアクティブなデータ ボリュームに影響を与えることなく、追加のドライブが動的に記憶域プールに追加されます。

コンピューターのバックアップのアーカイブ処理。 古いコンピューターを新しいコンピューターに置き換える際に古いコンピューターのバックアップを保存しておく場合、Windows Server 2012 R2 Essentials のアーカイブ機能を利用できます。古い PC から Windows Small Business Server コネクタ ソフトウェアを削除すると、そのコンピューターのバックアップをサーバー上に保存するかどうか尋ねられます。アーカイブしたコンピューターは、最大 25 台というデバイス数の制限には含まれません。

安全なリモート Web アクセスの提供

リモート Web アクセス¹ は動的に更新される Web サイトです。暗号化接続を使用して、スモールビジネスネットワークに対してシンプルかつ安全で統合化された単一のエントリポイントを提供します。インターネットに接続すれば、実質的に場所をデバイスに制限されることなくタッチ入力に対応したブラウザを使用して、アプリケーションやデータにアクセスすることができます。権限を持つユーザーは、インターネットに接続されたコンピューター、またはサポートされているブラウザがインストールされているモバイルデバイスを使用してリモート Web アクセスに接続することができます。Windows Small Business Server の以前のバージョンのリモート アクセス機能と比較すると、リモート Web アクセスでは、ソフトウェア開発キット (SDK) による拡張性が向上しているので、高度なカスタマイズ、ガジェット、アドイン拡張、モバイル向け画面、共有フォルダーの操作の向上が可能になります。

¹ リモート Web アクセス機能を使用するには、一部のサービスプランで顧客からのアクセスがブロックされている特定の“ポート”へのアクセスなど、ブロードバンドプロバイダーの追加サービスが必要になる場合があります。サービスの詳細については、該当するブロードバンドプロバイダーにお問い合わせください。

共有フォルダーへのリモート アクセス。ユーザーは、ネットワークに接続されていないときでも、ファイルやフォルダーをダウンロードすることや、1つまたは複数のファイルをサーバーの共有フォルダーにアップロードすることができます。また、共有フォルダーを検索して特定のファイルを見つけることもできます。ファイルへのリモートアクセスが容易であること、またサーバーは権限を持つユーザーのみがアクセスできることとデータが保護されていることから、サーバー上にデータを保存することをお勧めします。

コンピューターへのリモート アクセス。ネットワーク上のコンピューターにリモートで接続し、オフィスのコンピューターを操作する場合と同様にアプリケーションを実行することができます。自分のコンピューターに接続するには、[コンピューター] タブで自分のコンピューターの隣に表示されている [接続] ボタンをクリックします。接続できるコンピューターは、次のいずれかのオペレーティング システムを実行していて [使用可能] の状態になっているコンピューターだけです。

- Windows 8.1 Pro、Windows 8.1 Enterprise
- Windows 8 Pro、Windows 8 Enterprise
- Windows 7 Ultimate、Windows 7 Enterprise、Windows 7 Professional

Windows Server 2012 R2 Essentials ダッシュボードへのリモート接続。リモートで作業している場合でも、必要に応じて Windows Small Business Server 2012 R2 Essentials ダッシュボードにアクセスして、新規ユーザーの追加、新規共有フォルダーの追加、ネットワークの正常性のチェック、管理タスクの実行などを行うことができます。

デバイス サポートの拡張性。Windows Server 2012 R2 Essentials では、更新された Windows Phone アプリや Windows 8 および Windows 8.1 クライアント向けの新しいアプリが提供されるので、サーバーにあるファイルやフォルダーへの直感的な接続、検索、アクセスを行うことができます。ファイルもオフライン アクセスに対応して自動的にキャッシュされ、サーバーへの接続が可能になった時に同期されます。

リモート ドメインの結合。Windows Server 2012 R2 Essentials では、ウィザードの指示に従ってわずか数回クリック操作だけで簡単に仮想プライベート ネットワーク (VPN) を設定できるので、ユーザーの VPN へのアクセスが簡素化されます。クライアント コンピューターから VPN 接続を利用すれば、オフィス外からでも Windows Server 2012 R2 Essentials 環境にリモートで接続できます。

クラウド サービスの統合

Windows Server 2012 R2 Essentials は、オンプレミスで実行するアプリケーションやサービスと、クラウドで実行するアプリケーションやサービスとを自由に選択できるように設計されています。以前のバージョンでは、Windows Small Business Server Standard に Exchange Server がコンポーネント製品として含まれていたため、クラウドベースのメッセージングやコラボレーション サービスを活用する場合に、コストや複雑さが増加していました。Windows Server 2012 R2 Essentials を使用すれば、オンプレミスで Exchange Server を実行する場合でも、Exchange のホスティング サービスを利用する場合でも、または Office 365 を利用する場合でも同じ種類の統合管理機能を活用することができます。

メッセージングと Office 365 とのコラボレーション。Office 365 は、電子メール、共有の予定表、文書をオンラインで作成および編集する機能、インスタントメッセージング、Web 会議、社外用パブリック Web サイト、社内用チーム サイトといった機能を提供するオンライン サブスクリプション サービスです。これらのすべての機能には、実質的に場所とデバイスに制限されることなくアクセスすることができます。Windows Server 2012 R2 Essentials には統合モジュールが含まれているので、ローカルの Windows Server 2012 R2 Essentials とオンライン Office 365 環境の両方のユーザー アカウントをダッシュボードから容易に管理することができます。さらに、クライアント コンピューターに Office 2010 がインストールされている場合には、そのアプリケーションを Office 365 で使用できるように簡単に構成することができます。Office 365 を使用すれば、Office 365 クラウドに保存されている Office 文書の取得、編集、保存を簡単に行い、

リアルタイムでの文書の共同作成、コンピューターを使用した気軽な通話、インスタントメッセージの送信、および Web 会議を行うことができます。

ホスト型 Exchange Server。 スモール ビジネスでは、ホスト型 Exchange Server で提供されるクラウド ベースのメッセージング サービスが広く活用されています。サービスプロバイダーは、Windows Server 2012 R2 Essentials が提供するフレームワークを基にカスタム アドインを簡単に構築して、特定のホスト型 Exchange 環境で実行することができるので、Windows Server 2012 R2 Essentials とホスト型 Exchange 環境の両方のユーザー アカウントをダッシュボードから容易に管理することができます。

オンプレミスの Exchange Server。 Microsoft Exchange Server は高い柔軟性と信頼性を備え、何百万ものユーザーがコミュニケーションと生産性向上を目的に毎日使用しているメッセージング プラットフォームです。別のサーバーで実行されている Exchange Server は、Windows Server 2012 R2 Essentials のコア コンポーネントではありませんが、スモール ビジネス向けに完全にサポートされている電子メール サービスの 1 つです。Office 365 を使用すれば、統合モジュールを利用して、Windows Server 2012 R2 Essentials と Exchange Server の両方のユーザー アカウントをダッシュボードから容易に管理することができます。

その他のクラウド ベースのアプリケーションおよびサービス。 メッセージングとコラボレーションは、多くのスモール ビジネスで最初に採用されるクラウド ベースのサービスですが、他にもさまざまなアプリケーションやサービスが利用可能です。Windows Server 2012 R2 Essentials とその豊富な機能拡張モデルを使用すれば、IT 環境をクラウド化し、マイクロソフトおよびサードパーティが提供するさまざまな機能を活用して、生産性を向上させることができます。Microsoft Dynamics CRM Online、Windows Azure、Windows Intune は、そのほんの一例に過ぎません。

ダッシュボードとスタートパッド

ダッシュボードは、Windows Server 2012 R2 Essentials のコマンドと制御を行うための中心部分です。スタートパッドはクライアント PC で実行され、ここからすべての操作をすぐに始めることができます。効率的な外観にデザインが一新され、機能が強化されたダッシュボードからは、ネットワーク上でのサーバーの動作、アクセス可能なユーザー、格納および取得可能な情報、それらの情報の整理、保護、およびリモートでの利用など、サーバーの動作を制御するのに必要なすべての管理タスクおよび保守タスクを実行することができます。適切なアクセス許可があれば、ダッシュボード自体にもリモートからアクセスすることができます。

ダッシュボードはタスクごとに整理されていて、さまざまな処理が複数のタブに表示されます。ダッシュボードの各タブには特定の作業項目が含まれていて、優れた管理性を提供しながら変更項目の理解と実行が簡素化されています。

- [ホーム] タブはデザインが一新され、すぐに簡単にさまざまな管理タスクを実行できるようになりました。サーバー環境の設定や管理、さまざまな (クラウド ベースでもオンプレミスでも) メッセージング サービスへの接続、サーバーの機能を拡張するアドインの設定、サーバー状態のスナップショットの取得、ヘルプとサポートの検索やアクセスなどを実行するショートカットがあります。
- [ユーザー] タブでは、最大 25 ユーザーのアカウントを追加することができます。アクセス許可のある共有フォルダーを変更することや、各ユーザーに許可するリモート アクセスのレベルを定義することができます。その他にも、パスワードポリシーを定義するなど、ユーザーのアカウントを管理する作業が可能です。
- [デバイス] タブでは、ネットワークに接続されているコンピューターの正常性やバックアップ ステータスを確認することに加えて、サーバーやクライアント コンピューターのバックアップを構成することができます。さらに、Windows 7 および Windows 8 クライアント コンピューターにグループ ポリシーを適用して、安全性をさらに高めることもできます。

- [記憶域] タブでは、サーバーの共有フォルダーや物理的なハード ドライブを管理できます。[サーバー フォルダー] サブタブでは、共有フォルダーの作成、変更、削除、および場所の移動を行います。[ハード ドライブ] サブタブでは、サーバーのハード ドライブの表示、追加、削除に加えて、記憶域スペースの管理も行います。これにより、種類の異なるハード ドライブの物理記憶容量の集約、ハード ドライブの動的な追加、回復のレベルを指定したデータ ボリュームの作成を行うことができます。
- [アプリケーション] タブでは、Windows Server 2012 R2 Essentials の機能を拡張するアドインを確認することや管理することができます。[アドイン] サブタブでは、マイクロソフトおよびその他のサード パーティによって開発されたソフトウェア コンポーネントの表示、管理、および削除を行います。[Microsoft Pinpoint] サブタブは、Microsoft Pinpoint の Web サイトに動的に照会し、評価の高いアプリケーションや、特定のビジネス ニーズに対応するために役立つその他のソリューションを表示することができます。
- ダッシュボードには、以下のリンクも表示されます。
 - [アラート]: アラート センターが開かれ、現在発生しているエラー、警告、または情報の各メッセージを表示します。
 - [設定]: サーバーの日付と時刻、Windows Update のプロパティ、メディア ストリーミングのプロパティ、リモート Web アクセスのプロパティを含む Anywhere Access の設定を構成するのに使用します。
 - [ヘルプ]: 製品情報が表示されます。

クライアントの容易なセットアップ。 コネクタソフトウェアは、ネットワークに完全に参加させる各コンピューターに Web ブラウザーのインターフェイスからインストールできるので、ローカルコンピューターからでもオフィスネットワーク外のリモートの場所からでも実行できます。スタートパッドは、サーバーへの接続時にクライアントにインストールされます。スタートパッドはネットワーク内の各クライアント PC で実行され、共有フォルダーへのアクセス、バックアップの開始、リモート Web アクセス ページへの接続、ダッシュボードの表示、インストールされたアドインからクライアント側への拡張機能の提供を簡単に行うことができます。

新しい開発オプション

Windows Server 2012 R2 Essentials で提供されている機能向上に加えて、製品やその機能の活用方法を大幅に拡大する次のような開発オプションがあります。

Windows Server Essentials Experience エクスペリエンスの役割。 付加価値機能は、以前は Windows Server の Essentials エディションだけに備わっていましたが、今では新しいサーバーの役割である Windows Server Essentials Experience (WSEE) に組み込まれています。現在、この役割は Windows Server の Standard Edition および Datacenter Edition の両方で提供されています。そのため、より規模の大きな組織や、ブランチ オフィスのある組織など、このような機能を活用できる導入シナリオが増えています。この役割を Standard Edition または Datacenter Edition で導入すると、サーバーを既存の Active Directory 環境に結合できるので、よりスケーラブルな管理が可能になります。また、Standard Edition および Datacenter Edition は Windows Server クライアント アクセス ライセンス (CAL) モデルを使用しているため、25 以上のユーザーが Windows Server Essentials の機能セットにアクセスできます。さらに、WSEE 役割が有効なネットワークに 2 つ以上の Standard サーバーまたは Datacenter サーバーを導入することも可能で、現在の環境でクライアント PC のバックアップのスケーラビリティを拡大することなどが可能になります。

自身の Hyper-V ホストとしての Windows Server 2012 R2 Essentials。 以前のバージョンの Windows Server Essentials では、仮想マシンとして実行するためには、Microsoft Hyper-V Server に含まれている無料のオプションであるハイパーバイザーを取得するか、Windows Server Standard Edition を使用して Hyper-V を実行する必要があります。

した。Windows Server 2012 R2 Essentials では、製品ライセンスの条項が拡大され、Hyper-V を実行するために1つのオペレーティングシステムのインスタンスを物理サーバーで実行し、Windows Server Essentials を仮想マシンとして実行するためにもう1つのオペレーティングシステムのインスタンスを実行できるようになりました。また、インストールウィザードも作成され、ホストサーバー環境を設定するために必要な手順を自動化することにより、仮想マシンとして導入するプロセスが簡略化されました。その結果、これまでになく簡単に、Hyper-V とその機能であるライブマイグレーションやHyper-V レプリカを利用できるようになりました。

拡張性およびアドイン

Windows Server 2012 R2 Essentials は、Windows Server 2012 R2 を基盤とし、その他のソリューションの展開が可能なプラットフォームとして設計されています。ソフトウェア開発キット (SDK) により、サーバーのコア機能の拡張に利用できるアドインを作成するための堅牢性の高い環境が提供されます。Web サービス API の新しいセットも追加され、拡張機能オプションも増えています。SDK の機能の一部を以下に紹介します。

- ダッシュボードの拡張性
 - ダッシュボードのタブの追加
 - 上位のタブにはオプションでサブ タブを含めることができます。
 - リスト ビュー タブ/サブ タブやカスタム タブ/サブ タブを作成できます。
 - 既定のタブは拡張可能で、サブ タブ、タスク、列、および詳細を追加できます。
 - ホーム ページは拡張可能で、頻繁に使用するタスクやコミュニティ リンクを追加できます。
- スタートパッドの拡張性
 - スタートパッドにカテゴリやタスクを追加できます。
- リモート Web アクセス サイトの拡張性
 - 独自のオンライン サービスのリンクを追加することや、メニューバーに新しい項目を作成することができます。
- クラウド サービスとの相互運用性
 - クラウド サービスとの間の相互運用性を構築するためのサンプル、ガイダンス、ツールが提供されています。
- "プロバイダー フレームワーク" と呼ばれる新しいフレームワークは、すべてのビジネス データの処理を実行し、各機能の状態を保持するアーキテクチャ レイヤーです。
- Web サービス API が拡張され、認証および暗号化されたインターネット接続経由でリモートデバイス、コンピューター、サーバー間の通信や対話型操作を行うことができます。
- アドインの開発者にとって役立つサンプルやテンプレートが含まれています。
- "方法" セクションには有益ないくつかの一般的な拡張シナリオが紹介されています。

ソフトウェア パートナーやハードウェア パートナーの大規模なエコシステム。世界中のマイクロソフトのパートナーは Microsoft Windows ソフトウェアと連携するソフトウェアやハードウェアのソリューションを構築し続けています。それらのパートナーが Windows Server 2012 R2 Essentials に精通していくにつれて、サーバーの中核機能を拡張するソリューションが提供されていくと予想されます。

スモール ビジネスのための Windows Server ソリューション

テクノロジーは、問題を作り出すためのものではなく、問題を解決するためのものであることを常に期待されてきました。Windows Server 2012 R2 Essentials および Windows Server Essentials Experience はその期待に応え、いっそう容易になったセットアップ、インストール、移行の作業、簡素化された管理作業、およびネットワーク全体でのより優れたセキュリティ機能をスモール ビジネスのお客様に提供します。これらの製品には、管理、ネットワーク、データストレージ、バックアップ、セキュリティ、文書やプリンターの共有のための最新のマイクロソフト テクノロジーが採用されています。Windows Server Essentials は、クラウド ベースのアプリケーションやサービスのための統合機能も提供するので、スモール ビジネスのお客様は、LOB ソリューションやコラボレーションのための最良の環境を柔軟に選択することができます。

Windows Server 2012 R2 Essentials では、コア インフラストラクチャとセキュリティ機能を自社のローカル ネットワーク内に保持しながら、クラウド ベースのサービスとの堅牢な統合が可能になります。その結果、エンドユーザーは現在の使い慣れた方法で作業を進めることができ、スモール ビジネスは、Microsoft Office 365 や Windows Azure などのプラットフォームを通じて提供されるクラウドの各種サービスを容易に利用することができます。

マイクロソフトのパートナーとの協業はビジネスの複雑さを軽減する上で大いに役立ちます。Windows Server 2012 R2 Essentials を使用すれば、パートナーにとっても、インストールや管理の簡素化、およびコストの軽減を通じてお客様に価値を提供することが容易になります。

次のステップ

Windows Server 2012 R2 Essentials および他の Windows Server ファミリの詳細については、次の Web サイトを参照してください。

- Windows Server 2012 R2 の追加情報:
<http://www.microsoft.com/ja-jp/server-cloud/windows-server/windows-server-2012-r2.aspx> および
<http://www.microsoft.com/ja-jp/server-cloud/windows-server-essentials/windows-server-2012-r2-essentials.aspx>
- Windows Server 2012 R2 (TechNet):
<http://technet.microsoft.com/ja-jp/>
- Windows Server 2012 R2 のダウンロードおよび評価:
<http://www.microsoft.com/ja-jp/server-cloud/evaluate/trial-software.aspx>
- 関連するブログ:
<http://blogs.technet.com/server-cloud> (英語)

さらに、マイクロソフトまたはマイクロソフト認定パートナーの営業担当者が個々のニーズおよび方向性に合わせて適切なアプローチおよび具体的な資料をお勧めして、評価を直接サポートすることもできます。